

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391600048		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホームさくらんぼ須屋 (A棟)		
所在地	熊本県合志市須屋2863-4		
自己評価作成日	令和5年11月30日	評価結果市町村受理日	令和6年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初と変わらずホームには前には トウモロコシ畑が広がっており、庭の花を眺めたり外気浴をしたりしてゆっくりと過ごして頂いている。時にはホームの畑の玉ねぎ・さつま芋の収穫を一緒にして、その後料理やおやつを共に作り提供している。高齢化が進み平均年齢は約90歳にまで上がってきたが、本人や家族の思いをくみ取りながら、なじみの職員が寄り添うケアを常に心がけている。コロナ禍が緩和して来た事により、今後面会や外出の制限なく行えるような方向性にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム裏の広大な畑に広がる牧草の光景は開設時から変わらず、入居者や職員にとってもホッとできる環境である。法人医療機関で経験を積んだ管理者は、グループホームという介護の現場に着任した後、一人ひとりの職員が力を発揮し、「あなたと共に」の理念の実現に力を尽くしている。コロナ感染症発生後は特に家族との連携に努めており、担当職員を中心に写真を同封した近況報告書の送付は安心や信頼に繋がっている。また、双方のユニットがお隣さんとして行き来することで、外出を控える時期もリハビリ歩行にもつながったり、全入居者・職員との交流が活気を生み出している。この11月よりホーム内での食事作りから業者による調理済みの副業活用に変更されている。入居者にとって音や匂い等を楽しむことが少なくなることは残念であるが、手作りおやつや季節に応じた飲み物の準備など更に工夫をしていきたいとしている。今後もお互いを支え合うさくらんぼのように、入居者に穏やかな時間を提供していきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「あなたと共に」を皆が集うホールに掲げてある。2月の全体会議の時にスタッフには伝え このまま継続で良いとスタッフから意見があっている。	年度末の話し合いで理念について意見を出し合い、開設時よりホーム運営の指針としており、このまま継続する事としている。理念「あなたと共に」は主役である入居者を取り巻く全ての人々と共に歩むことを指しており、運営推進会議のメンバーにも認知されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板で地域の情報を共有している。毎年、祭りや小学校で行われているイベントに参加していたが今年度も地域の清掃作業に職員のみ参加した。	本年度も殆どの地域行事が中止となったが、文化祭には入居者の作品を出品して人々に見てもらい、職員が地域の一員として清掃作業に参加している。南側のテラス前には広大な畑が続いており、畑作業中の方から野菜の差し入れを受けたり、例年続いている小学生からのプランター(花)のプレゼントや、チリ出しの際の近隣住民との立ち話など今できる事で地域とのやり取りを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭に利用者が書いた習字や塗り絵を展示させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、運営推進会議は行っていないが入居状況・利用者状況・行事や活動の報告は2か月に1回書面にて郵送している。また、さくらんぼ新聞も同封している。今年度家族代表の交代があった。	コロナ感染症が5類移行となったものの、社会的にはその後も感染症の発症が続いており、法人の意向によりホームでは直接開催とはせず、これまで通り関係者へ議事録を送付や持ち届けている。	直接開催ではない事から、身体拘束への取組や事故報告などについても発信することでホームの現状を明らかにし、透明性が図られるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為運営推進会議に参加して頂く事は出来なかったが介護保険の更新手続きや職員の資格変更の相談をしたり関係を築いている。10月合志市からの運営指導も受けた。	行政の運営指導により、運営推進会議を直接開催に切り替えたらどうかとの指導を受けている。その際、担当者には館内を見てもらいホームの日常を発信している。行政には事故報告書の提出や相談事に応じてもらいながら良好な関係性を築くようにしている。認定調査はケアマネジャーや主任が立ち会い、入居者の現状をありのままに伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け年2回の勉強会・3か月1回はメンバーと職員も入り会議を行っている。点滴の際は職員の目の届くホールで抑制はせずに行い、夜間不眠者に対しても4点柵は行わず見守りしている。	身体拘束適正化委員会を設置し、年2回の勉強会と3か月ごとに委員による会議を開いている。足元センサーや鈴を使っているが、日中は使用を取りやめ夜間帯にのみ使っており、プランに入れて家族の了承を得ている。同時対応や時間が無い場合などに「ちょっと待って」が聞かれるが、言葉の表現方法を変える等入居者が不快にならないような対応が必要としている。今年度初めて「虐待の芽チェックリスト」を受けており、集計の後全員で話し合いの機会を持っている。	チェックリストの継続と、受けてみでの職員の感想などを文章にて残されることも良いと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する指針を作成し、年2回の勉強会を行い全体の会議時にも話をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を1名の方が利用しており権利擁護や成年後見制度に関する勉強会でも知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明し、家族が十分納得された上で契約を行っている。契約後も何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話連絡時にはコミュニケーションを深め気軽に意見を言ってもらえるような環境を作っている。又、きちんと書類等へ書き留めて会議やスタッフ間で話し合い改善を図りサービスの向上に努めている。	面会が直接面会ではない事から家族からは再開を望む声があがっている。ホーム日より「さくらんぼ新聞」で入居者の日常や行事の様子を伝えながら、来所の折に意見や要望を聞き取るようにしている。入居者とは普段の関わりの中から思いを引き出しており、中には自宅に実る柿やみかん等を持ってきて欲しいといった要望を伝える方もおられる。	管理者は今後、面会や外出が制限なく行えるような方向性にあるとして、家族の意見を真摯に受け止めており、直接面会の再開が待たれるところである。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議は毎月と年2回は全体の会議を行い職員の意見や要望を聞くようにしている。会議はできるだけ参加出来るやすい時間に行っている。	月のユニット会議で入居者の現状を共有し、レクリエーションの担当者を中心にその月の行事について意見を出し合うようにしている。時には撮りためていた行事や普段の様子を入居者と一緒に見る事も相互の楽しみとなっている。管理者は有休取得や職員の意見や相談事に応じながら、働きやすい職場作りに努めている。同業者による連絡協議会もスタートしており、情報交換や研修を通じて互いの質の向上を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤・パートそれぞれの勤務に無理はないか確認したり、新人には入職して相談できる職員はいるかなど日々職員とは話す時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービス全体の勉強会には参加できなかったが、今年度はインターネットを利用しリモート研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、他事業所との勉強会や交流会を回数は少ないが開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動に注意を払い、要望に耳を傾け素直に思いを伝えられる環境作りを行っている。不安な様子が感じられるときには居室など静かに話せる場で話を聞き寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減や不安が解消出来るように努めている。できるだけ思いを表出出来るように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にはヒアリング等で、これまでの生活状況を確認した上で安心して生活出来るようなサービスを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の何気ない言葉や話しかけにも職員と利用者とはが医師の疎通を図れるよう気を配ったり悩み事などの相談が出来る場面を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めに担当者が本人の様子を手紙で伝え、2か月に1回「さくらんぼ新聞」を発行しホームでの様子や写真を載せて伝えている。家族にも遠慮なく要望や不安な事などが言える様な雰囲気作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症防止の為、面会やボランティアの方が来所出来ない様な状況が続いていたが、ガラス越しに面会が出来るようになり少しずつ以前の状態になりつつある。	家族等との面会は居室から窓越しで行い、携帯電話を使って会話してもらうようにしている。ウッドデッキでの洗濯干しや取り込み、楽しみ毎の塗り絵、昼食後一時間ほどの休息を取るなど、個々の過ごし方が継続できる環境を整え、支援している。2か月ごとに来所する訪問理容も入居者にとって顔馴染みの関係である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格や能力を把握した上で共同生活が出来るように見守ったり、間に入ったりしている。孤立しそうな利用者に対しては個別で対応しストレスにならない様に気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、いつでも連絡や相談をして頂ける様に声かけをしておき実際に電話での相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者との日々の関わりの中で、ここでの暮らし方について思いを聞き取り、今の気持ちを引き出す様に努力している。カンファレンスを行い一貫した援助が出来るようにしている。	入居者の思いは普段の生活の中でくみ取り、支援に反映するようにしている。表現困難な場合にはホームでの生活ぶりや面会、担当者会議で家族から聞き取り入居者の思いを確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネジャーから入所前の生活歴・家族構成・身体状況の情報収集をしている。入所後も新たな情報は職員で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意見を尊重して一日の過ごし方を決めて支援している。本人の心身状況に応じて無理の無いように、今出来る事や興味のある事の把握に務めて生活に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を元に職員の意見をまとめてプランを作成している。定期的な評価で現状を見直し修正を図りながら職員間で共有している。	入居者・家族の意向を尊重し、アセスメントには入居者の担当者が関わり、スタッフ会議での職員意見をもとに立案している。認知機能の低下に入居者の得意とする食への関わりやレクリエーション、季節行事への参加、廊下やベランダでの歩行訓練や外気浴などの生活リハビリを通じて穏やかで張りのある生活の支援を掲げている。計画作成担当者やケアマネジャーが3か月ごとに評価を行い、現状に即したものにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、注意事項などは申し送りノートを活用し職員間での情報収集を行っている。また、実践結果により介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、家族の代わりに病院受診に付き添ったり日用品・嗜好品を買いに行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症防止の為、外出の楽しみがない中、敷地内にあるコスモス畑を散歩したり、芋ほりや玉ねぎの収穫等で喜びを持ち四季の変化を楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所前からのかかりつけを支援している。基本的に受診は家族対応としているが、入所者の高齢化に伴い協力医による訪問診療が多い状況である。又、緊急な場合等も家族に連絡とりながらホームで対応している。	希望するかかりつけ医からの訪問診療と、家族による受診外出が行われている。入居者の高齢化により訪問診療が多い現状であり、受診結果は家族と共有を図り、ホームでの状態も面会時や電話、書面などで伝えている。口腔内の清潔保持は食後、個々に応じて声掛け・誘導を行い、最後に職員が確認や仕上げを行っている。歯科は本人・家族の希望や必要時に訪問診療で対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体面での変化やバイタルの異常がある時は看護師に早めに報告し早期発見に努めている。転倒・感染性疾患・救急時の処置の仕方などの勉強会を取り入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院や家族と連絡を取り情報を共有している。最近では面会や退院前の会議に参加出来ないため電話連絡が中心となっているが、ご家族とも相談しながら進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に関わる指針や取り組み体制について話をしている。ホームでの看取りを希望された家族には細目に状況を説明し主治医とも話し合いを持ち、今年度はコロナウイルス感染症防止に努めながら可能な場合は短時間の面会もしてもらった。	契約時に重度化・終末期に関するホームの方針を伝え、家族の意向を確認しているが、その時点では「まだはっきりしていない」と応える家族もおられ、状況を見ながら再度聞き取っている。この2年間では長くホームで過ごされた方の看取りやギリギリまでの支援が行われている。支援中はドアを開けコミュニケーションをとりながら、他の入居者の声を耳にしてもらったり、感染症に配慮しながらの面会など出来得る支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し救急車要請の訓練やスタッフの緊急連絡網も電話の近くに貼りだしている。今年度は消防署の方を呼んでの訓練は行っていないが所内での勉強会で知識を得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度はコロナウイルス感染症防止の為に消防署を呼んでの訓練は行っていないが、年2回所内で災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を行っている。必要な備蓄殆どは法人で保管しているがホーム内にも保管している。	本年は3月に地震からの出火を想定した訓練を実施し、入居者も一緒に玄関まで避難している。7月にホームからの夜間出火を想定、11月に隣接の小規模施設からの出火を想定した避難訓練を昼間想定で実施している。日々の安全チェックは防災担当者が中心となり取り組んでいる。災害備蓄は法人と、ホーム内にも麺類や水などを中心に確保し、感染症対策の備品もホームと小規模施設双方に備えている。	BCP策定を法人で進めており、完成後はホーム内で共有を図られる事を期待したい。現在は近隣者との交流を控えているが、状況をみながら災害対策について双方が出来る協力体制について話し合われることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性や人格を尊重した介護を基本と考え、その方に合った声かけや対応を心がけている。又、排泄・入浴・個室でのプライバシーについては入所者が安心でき気持ちよく過ごして頂ける様に努めている。守秘義務については入職時や研修を通して知識を深めている。	個々の尊重やプライバシーに配慮した支援については、チェックリスト(入室時のノックや声掛けなどもあり)をもとに振り返っている。呼称は基本的に苗字で対応しているが、同姓やこれまでの呼ばれ方などから下の名前を家族の了承を得て対応している。身だしなみやおしゃれの支援については、個々の好みなどに配慮しながら、担当職員が中心に支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リハビリ体操・レクリエーションへの参加、入浴や休む時間などは日常生活の中で自己決定して頂けるように努めている。意思表示の難しい入所者に対しては表情や動きなどを察知し本人の思いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて生活のリズムを大切にし、穏やかに過ごしてもらう様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人家族の希望を考慮し服装や季節・体型に合った服装に心がけている。起床時や入浴時は整髪・髭剃りなど身だしなみには注意を払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂く為におかずの盛り付けの準備を一緒に行っている。一人一人食事の形態に合わせてキザミ・ソフト食を提供している。苦手な献立時には代替りの食事を用意している。おやつ時に手作りや季節の果物を提供している。	今年11月より主食のご飯のみホームで炊き、副菜は業者によるチルド食を温め、汁物は届いた具材を職員が調理し提供している。盛り付けや準備などは入居者と一緒に取り組んでいる。個々の嚥下力に応じキザミやムース食、苦手な献立には代替え食など可能な限り個々に応じた提供に努めている。おやつは手作りや季節の果物を準備しており、特に木曜日は好まれるバナナの日としている。またおやつ時の飲み物も緑茶や紅茶、珈琲、生姜湯、スポーツ飲料、夏祭り時はノンアルコール(ビール・梅酒)など、好みや季節に応じて楽しめるよう工夫している。	味や量の確認を兼ねた検食者のような形は取られていない事から、少しでも味見をし入居者とコミュニケーションを取られることを期待したい。また、汁物は唯一ホーム内で味付けなども工夫できることから、ホーム畑で取れた野菜を加える等手作り感もアップする一工夫に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、体操・レクリエーション・入浴後など小まめに水分補給を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、個々に応じた声かけ・誘導を行っている。出来る範囲まで自分で歯磨きをして頂き、最後に職員が口腔内の確認をしたり介助が必要な方にはスポンジ等を使用している。本人や家族が希望される場合は受診や歯科訪問診療で対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけや誘導を行っている。普段オムツの方も状況に応じたトイレに座って頂いたり排便や尿量によってはパットの大きさを考慮し使用している。	チェック表を活用し把握した排泄パターンの共有により、個々に応じた支援に努めている。日中はトイレでの排泄を基本とし、昼夜パットを使い分け紙パンツで過ごされる方が殆どであるが、布パンツを使用される方も数名おられる。また、居室での生活が中心になられた方にはオムツを支援しているが、状況に応じたトイレに座ってもらっている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、臭気など残らないよう清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンや下剤の服用状況を把握した上で、声かけや誘導を行っている。水分補給やコーヒーを牛乳に変更したり、できるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時には乳製品(牛乳・ヨーグルト)などを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後から行い、浴室では個々に合わせた入浴方法を工夫しゆっくり会話をしながら行っている。季節ごとに柚子や菖蒲を入れて楽しんで頂いている。	週2回、午後からの入浴を支援している。可能な限り湯船にゆっくり浸かってもらえるようにしているが、まだぎが困難な方にはシャワー浴で対応している。拒否の方には職員が声掛けや担当を変更するなど工夫しているが、難しい日も多いようである。菖蒲や柚子湯は全員が楽しめるよう3日ほど準備しており、広報誌でも紹介している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調や介護レベルで休息時間を設けている。体力がある方は、なるべく昼間は起きて頂き夜間安眠できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ壁掛け袋に一人一人入れてあり内服確認している。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気をつけている。現在インシュリン注射もやっている入所者もおられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中リハビリ体操・レクリエーションを行っている。昼からは塗り絵が好きな方には季節感ある塗り絵・他にパズル・歌番組や時代劇の視聴など本人が楽しんで過ごして頂ける様に支援している。職員と一緒に家事の手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在もコロナウイルス感染症防止の為に外出は控えているが、気候に合わせ敷地内の散歩やコスモス畑を見に行ったりテラスに出て季節の樹木や花を眺めたりしている。又、窓越しの面会を行い家族にも安心して貰っている。	まだ外出を控えている現状であり、引き続き敷地内の散歩やデッキに出て日光浴やテーブルを出し、お茶を楽しんでいる。庭には花やキンカンなど実のなる樹木が植えられている他、玉ねぎは苗植えから取り組んでおり、入居者も収穫を楽しまれている。外出が出来ない分ユーチューブを使って観光地や花、動物を見て旅行や外出気分を味わってもらおう等職員のアイデアが聞かれた。	現在家族とは窓越しの面会が支援されているが、今後は状況をみながら家族の協力を得た外出支援に期待したい。またあらたまった外出でなくとも、庭先の散歩やデッキで一緒に外気浴やお茶を楽しむなども支援しやすいものと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は家族の希望に応じ数千円預かり、金庫内に保管している。ちょっとした日用品等は現在コロナ禍で外出を控えている為にスタッフが購入している。家族が来所された時に残金やレシート、出納帳を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合、相手方の都合も考慮し電話を使用するよう支援している。家族から様子伺いの電話が来た際は本人と代わり話をしてもらったり、遠方に住む家族から敬老の日・誕生日・母の日などお祝いの品物が届く事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保ち日中はカーテンを開け光を取り込み定期的に窓を開け空気を入れ替えをし快適に過ごせる工夫をしている。感染予防の為に清掃・消毒にも努めている。	リビングから眺める広大な畑の光景は開設時から変わることなく、入居者は牧草や野菜の成長、収穫などを間近に見ながら過ごされている。明るいリビングは食事やレクリエーション、自身で取っている新聞を広げる等日中の活動の場となっている。各ユニットの壁面はそれぞれの職員が工夫し、入居者と一緒に季節の壁面を作成したり、入居者の作品などが掲示されている。ホーム内はコロナ5類移行後も引き続き、換気や掃除、消毒が徹底されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が好む場所を理解した上でホールでは入所者同士のコミュニケーションが出来るようにテーブルや椅子の配置に気を配っている。テレビ横や廊下にもソファを置きゆくりできる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入所者と家族の要望に合わせて使い慣れた家具を持参され、テレビ・ぬいぐるみ・家族の写真や思い出の品を飾ってリラックス出来るようにしている。	居室にはクロゼットが備わっており季節外の衣類や寝具、排泄用品などが収納されている。入居時に使い慣れた品や必要なものなどの持ち込みを依頼しており、目覚まし時計、家族の写真、ぬいぐるみなどの他、机と椅子が置かれた部屋で遅くまで塗り絵を楽しまれる方もおられるようである。衣替えを小まめにされる家族もおられるが、殆どの方がクロゼットでの保管をホームに依頼されている。衣服などで傷みが見られる場合は、家族へ伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており入所者一人一人の身体状況を把握し歩行器・車椅子の方にも安心安全に行動出来るスペースを設けている。部屋がわからない方にはドア近くに名前を書いたりしている。		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「あなたと共に」を皆が集うホールに掲げてある。2月の全体会議の時にスタッフには伝え このまま継続で良いとスタッフから意見があっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板で地域の情報を共有している。毎年、祭りや小学校で行われているイベントに参加していたが今年度も地域の清掃作業に職員のみ参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭に利用者が書いた習字や塗り絵を展示させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、運営推進会議は行っていないが入居状況・利用者状況・行事や活動の報告は2か月に1回書面にて郵送している。また、さくらんぼ新聞も同封している。今年度家族代表の交代があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為運営推進会議に参加して頂く事は出来なかったが介護保険の更新手続きや職員の資格変更の相談をしたり関係を築いている。10月合志市からの運営指導も受けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け年2回の勉強会・3か月1回のメンバーでの会議を行っている。点滴の際は職員の目の届くホールで抑制はせずに行い、夜間不眠者に対しても4点柵は行わず見守りしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する指針を作成し、年2回の勉強会を行い全体の会議時にも話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を2名の方が利用しており権利擁護や成年後見制度に関する勉強会でも知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明し、家族が十分納得された上で契約を行っている。契約後も何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話連絡時にはコミュニケーションを深め気軽に意見を言ってもらえるような環境を作っている。又、きちんと書類等に書き留めて会議やスタッフ間で話し合い改善を図りサービスの向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議は毎月と年2回は全体の会議を行い職員の意見や要望を聞くようにしている。会議はできるだけ参加出来るやすい時間に行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤・パートそれぞれの勤務に無理はないか確認したり、新人には入職して相談できる職員はいるかなど日々職員とは話す時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービス全体の勉強会には参加できなかったが、今年度はインターネットを利用しリモート研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、他事業所との勉強会や交流会を回数は少ないが開催している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動に注意を払い、要望に耳を傾け素直に思いを伝えられる環境作りを行っている。不安な様子が感じられるときには居室など静かに話せる場で話を聞き寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減や不安が解消出来るように努めている。できるだけ思いを表出出来るように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にはヒアリング等で、今までの生活状況を確認した上で安心して生活出来るようなサービスを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の何気ない言葉や話しかけにも職員と利用者とは医師の疎通を図れるよう気を配ったり悩み事などの相談が出来る場面を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めに担当者が本人の様子を手紙で伝え、2か月に1回「さくらんぼ新聞」を発行しホームでの様子や写真を載せて伝えている。家族にも遠慮なく要望や不安な事などが言える様な雰囲気作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症防止の為、面会やボランティアの方が来所出来ない様な状況が続いていたが、窓越しに面会が出来るようになり少しずつ以前の状態になりつつある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格や能力を把握した上で共同生活が出来るように見守ったり、間に入ったりしている。孤立しそうな利用者に対しては個別で対応しストレスにならない様に気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、いつでも連絡や相談をして頂ける様に声かけをしておき実際に電話での相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者との日々のかかわりの中で、ここでの暮らし方について思いを聞き取り、今の気持ちを引き出す様に努力している。カンファレンスを行い一貫した援助が出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネジャーから入所前の生活歴・家族構成・身体状況の情報収集をしている。入所後も新たな情報は職員で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意見を尊重して一日の過ごし方を決めて支援している。本人の心身状況に応じて無理の無いように、今出来る事や興味のある事の把握に務めて生活に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を元に職員の意見をまとめてプランを作成している。定期的な評価で現状を見直し修正を図りながら職員間で共有している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、注意事項などは申し送りノートを活用し職員間での情報収集を行っている。また、実践結果により介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、家族の代わりに病院受診に付き添ったり日用品・嗜好品を買いに行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症防止の為、外出の楽しみがない中、敷地内にあるコスモス畑を散歩したり、芋ほりや玉ねぎの収穫等で喜びを持ち四季の変化を楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所前からのかかりつけを支援している。基本的に受診は家族対応としているが、入所者の高齢化に伴い協力医による訪問診療が多い状況である。又、緊急な場合等も家族に連絡とりながらホームで対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体面での変化やバイタルの異常がある時は看護師に早めに報告し早期発見に努めている。転倒・感染性疾患・救急時の処置の仕方などの勉強会を取り入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院や家族と連絡を取り情報を共有している。最近では面会や退院前の会議に参加出来ないため電話連絡が中心となっているが、ご家族とも相談しながら進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に関わる指針や取り組み体制について話をしている。ホームでの看取りを希望された家族には細目に状況を説明し主治医とも話し合いを持ち、今年度はコロナウイルス感染症防止に努めながら可能な場合は短時間の面会もしてもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し救急車要請の訓練やスタッフの緊急連絡網も電話の近くに貼りだしている。今年度は消防署の方を呼んでの訓練は行っていないが所内での勉強会で知識を得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度はコロナウイルス感染症防止の為に消防署を呼んでの訓練は行っていないが、年2回所内で災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を行っている。必要な備蓄などは法人で保管しているがホーム内にも保管している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性や人格を尊重した介護を基本と考え、その方に合った声かけや対応を心がけている。又、排泄・入浴・個室でのプライバシーについては入所者が安心でき気持ちよく過ごして頂ける様に努めている。守秘義務については入職時や研修を通して知識を深めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リハビリ体操・レクリエーションへの参加、入浴や休む時間などは日常生活の中で自己決定して頂けるように努めている。意思表示の難しい入所者に対しては表情や動きなどを察知し本人の思いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて生活のリズムを大切にし、穏やかに過ごしてもらう様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人家族の希望を考慮し服装や季節・体型に合った服装に心がけている。起床時や入浴時は整髪・髭剃りなど身だしなみには注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂く為におかずの盛り付けの準備を一緒に行っている。一人一人食事の形態に合わせキザミ・ソフト食を提供している。苦手な献立時には代替りの食事を用意している。おやつ時に手作りや季節の果物を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、体操・レクリエーション・入浴後など小まめに水分補給を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、個々に応じた声かけ・誘導を行っている。出来る範囲まで自分で歯磨きをして頂き、最後に職員が口腔内の確認をしたり介助が必要な方にはスポンジ等を使用している。本人や家族が希望される場合は受診や歯科訪問診療で対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけや誘導を行っている。夜間も尿意のある方などにはポータブルトイレを利用し睡眠にしようをきたさない程度に支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンや下剤の服用状況を把握した上で、声かけや誘導を行っている。水分補給やコーヒーを牛乳に変更したり、できるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時には乳製品(牛乳・ヨーグルト)などを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から個々に合わせゆっくりと1対1で入浴をして頂いているが、拒否がある方へは午前中など他時間の声かけも行っている。季節ごとに柚子や菖蒲を入れて楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調や介護レベルで休憩時間を設けている。体力がある方は、なるべく昼間は起きて頂き夜間安眠できるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ壁掛け袋に一人一人入れてあり内服確認している。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやリハビリ体操、歌やパズル、塗り絵など本人が楽しんで頂ける様支援している。又、職員と一緒に食事の盛り付けや洗濯たたみなど家事のお手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなどの外出は行っていないが、気候に合わせてベランダでおやつを食べたり敷地内の散歩を行っている。又、ガラス越しの面会を行い家族とのコミュニケーションを図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は家族の希望に応じ数千円預かり、金庫内に保管している。ちょっとした日用品等は現在コロナ禍で外出を控えている為にスタッフが購入している。家族が来所された時に残金やレシート、出納帳を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合、相手方の都合も考慮し電話を使用するよう支援している。家族から様子伺いの電話が来た際は本人と代わり話をしてもらったり、遠方に住む家族から敬老の日・誕生日・母の日などお祝いの品物が届く事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日清掃し感染予防の為に窓を開け空気の入替え・消毒も行っている。利用者の体感温度に合わせてエアコンでの調節も行い、心地良く過ごせるように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が好む場所を理解した上でホールでは入所者同士のコミュニケーションが出来るようにテーブルや椅子の配置に気を配っている。テレビ横や廊下にもソファを置きゆつくりできる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入所者と家族の要望に合わせて使い慣れた家具を持参され、テレビ・ぬいぐるみ・家族の写真や思い出の品を飾ってリラックス出来るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており入所者一人一人の身体状況を把握し歩行器・車椅子の方にも安心安全に行動出来るスペースを設けている。部屋がわからない方にはドア近くに名前を書いたりしている。		